



修復された学校(左) 新しくなった教室での授業の様子(右上) 新しくなった学校の外壁(右中) 浄水器(右下)

清潔な水と衛生設備の整備、啓発活動を通じて、子どもたちは水系感染症のリスクから守られ、健康的な学びの環境が整いつつあります。学校職員や地域住民も、新たな設備の管理方法

また、水と衛生の研修を受けた子どもたち自身が中心となって「水衛生クラブ」を立ち上げ、学校や地域で啓発活動を実施しました。

シンド州ダドゥ郡の小学校12校で「学校環境と水衛生の改善事業」が順調に進んでいます。教室の改修が必要だった12校のうち8校で改修作業が完了。トイレの建設は90%完了し、水供給設備や太陽光パネルの設置も進んでいます。先日の学校譲渡式では、教育局へ4校を正式に引き渡すことができました。

皆さまのご支援で、子どもたちに希望あふれる未来を届けています

を学び、学校運営への関与を深めています。

この取り組みは、洪水後の復旧にとどまらず、安全で持続可能な学びの場をつくり、1,440人の子どもの未来への希望をもたらすことを目指してきました。既に地域の方々から「子どもたちの未来が明るくなった」と感謝の声が寄せられています。

一歩一歩ではありますが、こうして地域の人びとと共に歩むことで、学校での支援活動が子どもたちの学びを促進するだけでなく、大人も含む地域全体の健康状態を改善するというインパクトの大きさを改めて実感しています。引き続き、温かいご支援をよろしくお願いいたします。

※本事業は、外務省・NGO連携無償資金協力の助成金や皆さまからのジェンへの寄付金により実施しています。

パキスタンでの支援活動をぜひ応援してください

今回のみの寄付はこちら



JENサポーター(継続)のご登録はこちら



ジェンへのご寄付は税制優遇を受けられます



人道支援を続けていきます

トランプ大統領が米国際開発庁(以下、USAID)の閉鎖を宣言してから、この原稿を書いている時点で約2週間が経ちました。宣言直後から支援事業の停止、職員の休職や削減などのニュースが飛び交い、ジェンの海外の同僚たちからも、米国大使館で勤務していたUSAID職員が解雇されたという報告がありました。

支援の現場にいる我々も、支援を受けておいでの方々にどれ程影響が出るのかを現時点ではまだ語れません。ただ、世界最大の支援国といわれる米国が支援を止めることで、命の危機にさらされる人いることは、多くの方に知っていただきたいです。

人道支援は、その支援がなければ命の存続が困難になる方々への支援です。文字通り、人の道として、支えないではいけないものです。命を支えられ、自らの力で暮らせるようになった方は、その多くが他の人を支えたいと言ってくださいます。ジェンだけでUSAIDの肩代わりをすることはできませんが、良い支援の循環が起きよう、できる限り支えていく所存です。引き続きの皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

JEN理事・事務局長

木山 啓子

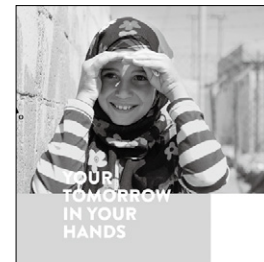
普通の暮らしを取り戻そうと努力する人びとを支える ジェンの活動をご支援ください

あなたの支援で、明日を選ぶ未来を—— JENサポーターを募集中



ジェンは、厳しい環境にある人びとが「自分で明日を選ぶ」よう支援を続けています。あなたもJENサポーターとして、「生きる力」を共に支えていただけませんか？

例えば、月々1,000円のご寄付を1年間続けていただくことで、アフガニスタンの2世帯の家族に衛生キットを届けることができます。この衛生キットは、命を守るために不可欠な道具です。あなたのご支援で、現地の家族が健康で安心できる生活を手に入れることができます。今、あなたのサポートが必要です。JENサポーターになって、未来を変える力を人びとに届けてください。



あなたの遺志が未来を支えます—— 遺贈寄付のご案内



遺贈寄付という形で、あなたの大切なご遺産の一部を託していただけますと、将来にわたって困難な状況に置かれた人びとを支えることができます。例えば、250万円のご寄付で、アフガニスタンの食糧危機に直面している30世帯(約210人)に、2ヶ月分の食糧と衛生知識を届けることができます。

この支援により、必要な栄養だけでなく、手洗いの重要性などの基本的な衛生知識が伝えられます。衛生習慣の向上は、子どもたちの健康を守り、彼らが勉強や遊びに集中できる環境を整えるだけでなく、家族全体の健康と自立を支える大きな一歩となります。

ジェンは、あなたの遺志を大切に、そのご厚意を通じて未来の命を守り続けたいと考えています。遺贈寄付についてご興味をお持ちの際は、ぜひお気軽にお問い合わせください。



※本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載は固くお断りいたします。

封筒に記載されてる住所について

現在のジェンの所在地は差出人選付先に記載されている住所となります。皆さまにはご不便をおかけいたしますが、ご理解賜われますようお願い申し上げます。



特定非営利活動法人ジェン(JEN) 東京本部事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂7-5-27-305
TEL: 03-5114-6201 FAX: 03-5114-6202

ホームページ <https://www.jen-npo.org/>
NPO JEN

Japan.Emergency.Ngo
@NGO_JEN @ngo_jen

このニュースレターは継続可能な森林管理のもと生産された原料で製造された紙、FSC®認定紙を採用しています。



職員紹介



管理部 経理担当
内藤こずえ
(ないとう こずえ)

本部経理を担当している内藤です。また、昨年立ち上がった情報整理チームにも所属し、組織運営の効率化にも取り組んでいます。

入職2年目にして、5年に一度の認定NPO更新という大きな業務を経験しました。NGOでの会計業務は初めてだったため、プロジェクトごとの収支管理や現地事務所との連携に苦戦しましたが、効率化を考えるのが好きな私は「来年はこうしよう!」と前向きに捉えることができました。その意欲を上司に伝えたとき、とても感動してもらえたのが印象に残っています。

ジェンの活動を応援してくださる皆さまには、心から感謝しています。皆さまから託された資金を無駄なく活かすため、東京本部と現地スタッフが丸と丸と真剣に取り組んでいます。一方で、私たちはまだまだ活動を伝える力が不足していると感じています。

今後は、ジェンの30年以上の経験を活かしつつ、時代の変化に対応し、支援を必要とする一人でも多くの方へ手を差し伸べられるよう努めてまいります。引き続き、温かいご支援をよろしくお願いいたします。

高校生が迫る! 国際支援団体のリアルとは?

「国際支援団体って何をするの?」そんな疑問を持った高校生が、ジェンの事務局長 木山啓子にインタビュー! 中学生~24歳までの若者が社会に関心を持ち、視野を広げる「ユースエクスプレス・ジャパン」の取材企画で、NGOの役割、ジェンの活動、これからの課題、そして若者への

メッセージなど、盛りだくさんの内容が詰まっています。未来を担う若者の視点からの国際支援の現場を、ぜひ、のぞいてみてください!

国際支援団体ってなにをするの? 実際に取材してみたレポートはこちらから! ▶



緊急人道支援組織 ジャパン・プラットフォームのYouTube番組「ソーシャルグッドタイムズ」で、ジェンのアフガニスタン事業が紹介されました!

現地でどのような支援が行われているのか、私たちの活動が分かりやすく

紹介されています。まだご覧になっていない方は、ぜひこの機会にチェックしてみてください!



【ソーシャルグッドタイムズ】
#13JEN (ジェン)

YouTube

紹介動画はこちらから! ▶



予告

近日公開予定! ジェンのポッドキャストが全5回シリーズで始まります! パーソナリティを務めるのは、フレッシュな視点を持つインターン出身のアルバイトのレチさん。どんなトークが繰り広げられるのか、お楽しみに! 公開日が決まりましたら、WEBサイトやSNSで告知いたします。

アフガニスタン 紛争と干ばつの影響を受けた帰還民・脆弱な地元の人びとへの水衛生・食糧支援
ザワ村とシャラファットさん(16歳)の大きな変化



新しくできた給水所で水が組めるようになったシャラファットさん

昨年ジェンが支援を行ったアフガニスタン・ナンガルハル県コギヤニ地区ザワ村では、大きな変化が生まれました。

この村で出会ったシャラファットさんは、以前はお父さんの収入があつたので、お金を払って水汲みを他の人に依頼していました。お父さんはアフガニスタン国軍で働いていましたが、2014年に戦闘で亡くなったそうです。以後10年間、シャラファットさん自身が山奥の水源(水たまり)まで通う日々が続きました。その水源は動物も利用する不衛生な場所、汚れた水のせいで彼や彼の家族はお腹を壊すことも度々ありました。

今回の井戸と給水所は、このシャラファットさんが住む村に建設したものです。その結果、シャラファットさんは毎日の長時間の水汲みから解放され、学校に通えるようになりました。それだけでなく、水と衛生に関する研修を受けたことで、シャラファットさんと村の人びとは水を媒介とする病気の防ぎ方や正しい衛生管理のやり方を知る

ことができました。衛生的な水が家のすぐそばで手に入り、衛生的な使い方を学んだシャラファットさんは、健康を害することなく勉強を続けられるようになり、新たな未来を描くことができるようになりました。

また、食糧配布と並行して農業用水路の整備も行い、整備の仕事をしてくれた村人たちには、労働の対価として食糧をお渡ししました。参加した方々のお腹が満たされただけでなく、整備された水路で農地に水を引くことができ、作物の収穫量が増え、村の人びとの収入向上にもつながりました。これに加えて重要なのは、村人たちが整備のやり方を学んだことで、使えなくなっていた他の水路を直せるようになったことです。

「井戸を作る」ことが子どもたちの教育機会を増やし、地域全体の健康を増進し、食糧を配る水路のプロジェクトが、他の水路を整備してゆく、といったように、ジェンは村全体の暮らしが持続的に変化するように、支援事業を設計しています。シャラファット

さんのように、支援を受けた人びとが未来に向かって歩んでいるよう、ジェンはアフガニスタンで活動を続けていきます。これからも、未来を支えるプロジェクトを、ジェンと一緒に続けていただけますようお願いいたします。

※本事業はジャパン・プラットフォームからの助成金や皆さまからのジェンへの寄付金により実施しています。



速く水源まで歩いて水を汲みに行っていたシャラファットさん

アフガニスタン
支援活動への
ご寄付はこちらから



インタビュー
動画を見る

